

- 1 乗れそうな雲二つ三つお元日
- 2 菜箸の長さの違う四日かな
- 3 人見失う淡雪の交差点
- 4 校庭に土俵ありけり斑雪
- 5 シナモンという名の仔犬春の雲
- 6 足裏のここは目のツボ山笑う
- 7 草青むてのひらやわらかくなりぬ
- 8 雨だれのつたう早さよフリージア
- 9 春寒のなんにも買わぬ一日なり
- 10 わたくしを呼んだか振り向けば椿
- 11 四温かな枕もテディベアも干す
- 12 高気圧張り出しなずな伸びざかり
- 13 その問いに答えず風車まわす
- 14 苗札のひとつにプリンセスミチコ
- 15 春愁のしっぽを抱いて眠りおり
- 16 空が澄む白木蓮の咲くために
- 17 母の手の匂い白木蓮の下
- 18 一年がふんわり巡る雛あられ
- 19 たんぽぽも董も白き町に住む
- 20 ふらここやあくまでも強気な瞳
- 21 犬の名の薬袋や黄水仙
- 22 いくらでも眠れる体サイネリア
- 23 さくらさくら祇園から来た唐辛子
- 24 夜桜を見にゆくフラットシューズかな
- 25 犬は腹見せ合い眠る桃の村
- 26 春昼をくぐる郊外電車かな
- 27 おしまいの一枝がいま花盛り
- 28 夏めくや渡り廊下の端と端
- 29 本屋まで自転車漕いで町薄暑
- 30 潮満ちる音してはつなつの川面
- 31 夏空のような大皿買いにけり
- 32 つれだつて大きくなつた枇杷熟るる
- 33 枇杷熟れてまだあたたかき山羊の乳
- 34 麦秋を泳いで渡る夕日かな
- 35 サン・テグジュペリの落書き蛍の夜
- 36 猫多き町なり豌豆育ちおり
- 37 香水の猫のかたちにおさまれり
- 38 深皿のなめらかな尻楸邨忌
- 39 青葉風犬を起こさぬようにゆく
- 40 巴里祭コインひとつで買う鏡
- 41 西風を頬に泰山木の花
- 42 夏の月無人のエレベーターが開く
- 43 訳ありなメロンが今日も冷やされて
- 44 夏草のはさまれており第二章
- 45 子を抱いて観音立てり青葉闇
- 46 うたた寝のまま空蟬となりにけり
- 47 文部省唱歌ポンポンドリアかな
- 48 黒揚羽触れてはならぬもの多し
- 49 炎天の祈り終えたる海を見る
- 50 グラジオラスフリルをもって生まれたる

- 51 向日葵や干されて白き柔道着
- 52 金魚ひらり算数ドリル50問
- 53 退屈な昼をにがうりぶらさがり
- 54 冬瓜をながながとよこたえて留守
- 55 水中花しつぽが生えた夢を見た
- 56 ぼつてりとてのひらありぬ秋昼寝
- 57 八月へ犠牲フライの上がりけり
- 58 秋簾親しき闇に灯をこぼす
- 59 仏前の水蜜桃も食べ頃に
- 60 法師蟬母に白髪抜いてもらう
- 61 露けしやアルゼンチンの紅き布
- 62 月光をのせてシーソーつり合いぬ
- 63 月の夜のカルピスぬるく残りおり
- 64 表情筋エクササイズを十三夜
- 65 山鳩のいつもの場所で鳴く九月
- 66 糸瓜忌の鉄棒があるぶらさがる
- 67 同じ釜の飯食う犬よ草の花
- 68 秋の昼むにゅつと魚肉ソーセージ
- 69 硝子器に水玉模様小鳥来る
- 70 この先にサーカステント秋高し
- 71 夕虹の根元へ急ぐ郵便車
- 72 マロングラッセ金曜の昼眠し
- 73 ひとことをちちろの闇へ送信す
- 74 荷運びの驢馬の一日星月夜
- 75 おはよしの野菊おかえりの野菊
- 76 蛇穴に入る眠るまで手をつなぐ
- 77 紅葉且つ散る角砂糖溶けきらぬ
- 78 この町の桜紅葉の頃にまた
- 79 三角の大きな耳に冬が来る
- 80 水鳥の眠りのかたち壊さぬよう
- 81 冬あたたか犬が嫁いでゆく話
- 82 人間に翼の名ごり冬満月
- 83 落ち葉踏むしあわせマシユマロ入りココア
- 84 紙に手を切られておりぬ冷たさよ
- 85 冬茜アコーデオンの鳴る廊下
- 86 耳立てて枯野の音を集めおる
- 87 夜の町をるふるんふるん雪うさぎ
- 88 冬滝のアングルを決めかねている
- 89 荒星のミルク回しているレンジ
- 90 海亀の涙して産む寒卵
- 91 どうしても寒い小指がついてくる
- 92 大天使の名前付けたる雪だるま
- 93 蓬菜やパカッと開くシーチキン
- 94 大統領就任の日のおでんかな
- 95 負けそうになるとズルする冬帽子
- 96 ご褒美にひとにぎりほど冬の虹
- 97 草城忌花の形のチョコレート
- 98 蕎麦湯ください五人分春の雪
- 99 ものの芽のはじめて触れしもの雫
- 100 あたたかや折り紙の先生が来る